

平成30年8月28日

平成30年12月期
第2四半期決算説明会

使命
悪をなさない
利益を生み出す
永續する

理念
人ひとりを大切に
地域社会への貢献
お客様を第一に

社訓
日々向上
創意工夫
同心協力

大倉工業株式会社

OKURA 真心奉仕、専心生産、誠意奉仕の心

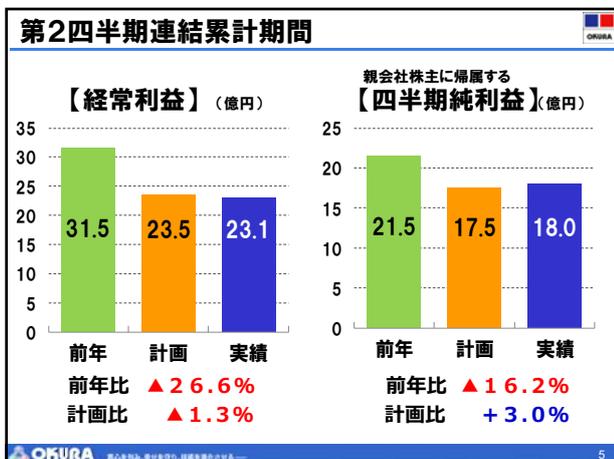
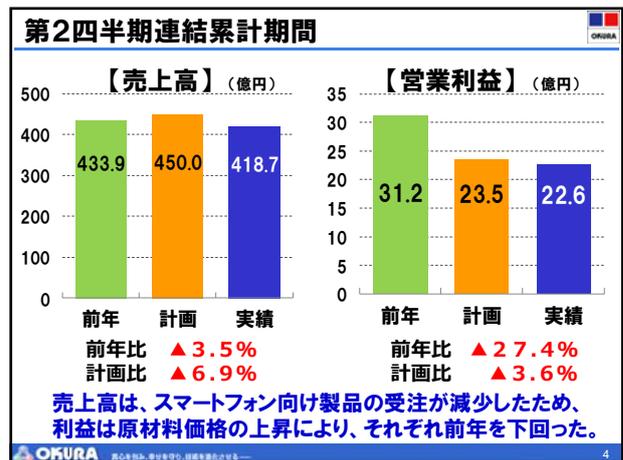
目次

1. 第2四半期決算の概要
2. 通期の業績予想

OKURA 真心奉仕、専心生産、誠意奉仕の心

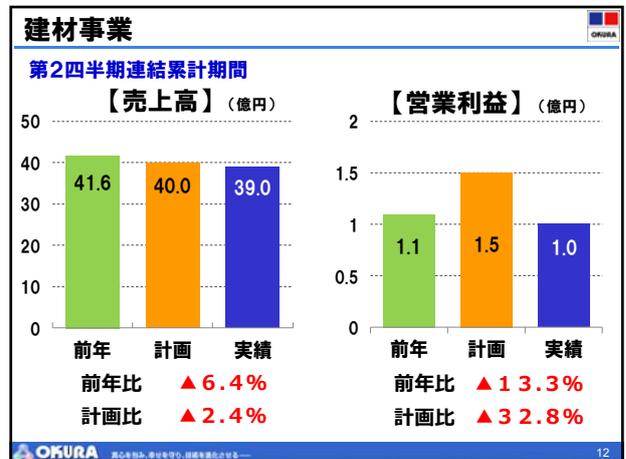
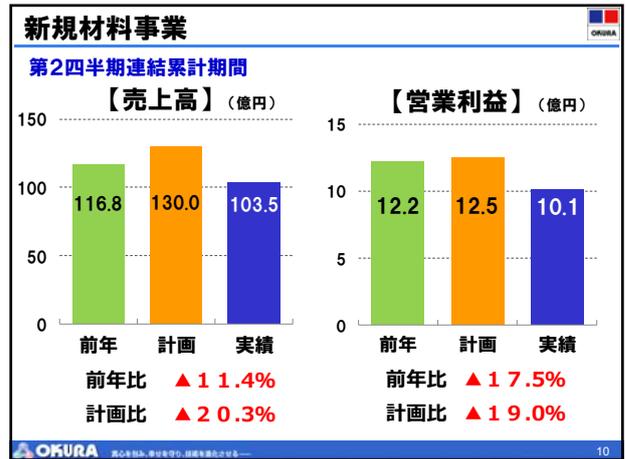
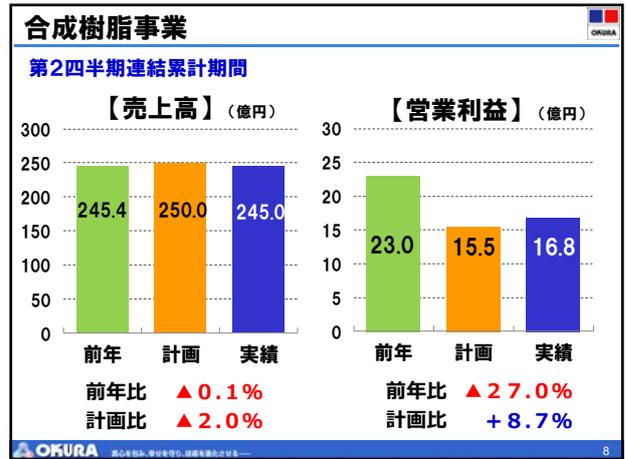
1. 第2四半期決算の概要

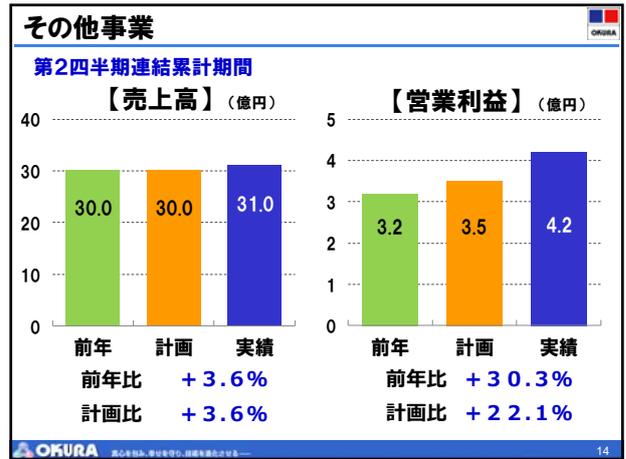
OKURA 真心奉仕、専心生産、誠意奉仕の心



セグメント別の概要

OKURA 真心奉仕、専心生産、誠意奉仕の心





キャッシュ・フロー

OKURA 高松を拠点に、東洋を軸に、国際展開を図ります。

15

連結キャッシュ・フロー計算書

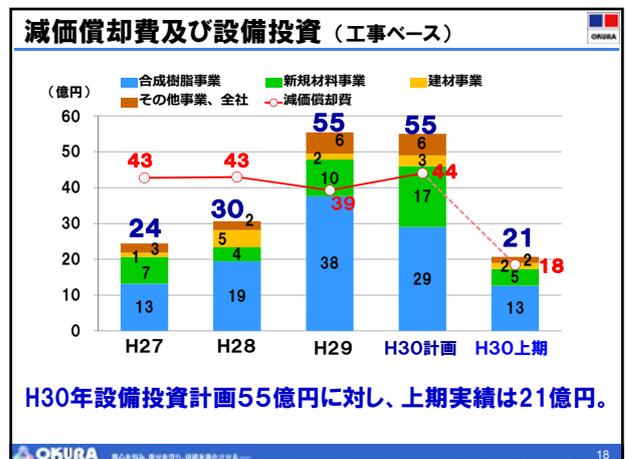
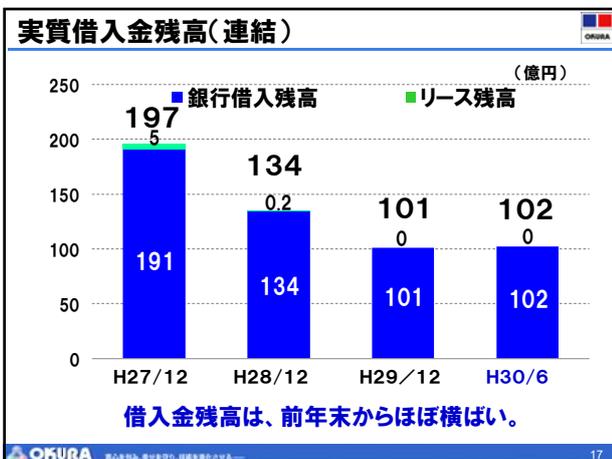
(億円)

	H29上期	H30上期
現金及び現金同等物期首残高	74.7	86.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	31.0	18.2
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲22.4	▲28.0
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲16.2	▲6.4
現金及び現金同等物期末残高	66.9	70.0

利益の減少等により、営業CFが減少。
設備投資の増加により、投資CFが減少。

OKURA 高松を拠点に、東洋を軸に、国際展開を図ります。

16



2. 通期の業績予想

通期業績予想

マクロ見通し

米国新政権の政策や欧州における政治リスク、中国やアジア新興国等の景気減速懸念など、景気は先行き不透明な状況。

外部環境

前年からの原油価格上昇により、原材料価格、物流費等は高止まりが続く。一方、インバウンド需要やEC市場は堅調に推移する。

売上高・営業利益・経常利益・当期純利益

上期に引き続き、拡販や歩留まりの改善、製品価格転嫁、固定費の削減に努め、当初の計画値を達成する。

通期業績予想

(億円)

	前期実績	H30計画
売上高	908	910
営業利益	57.8	48.0
経常利益	58.9	48.0
親会社株主に帰属する当期純利益	27.2	25.0

平成30年2月13日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

通期業績予想

セグメント別売上高

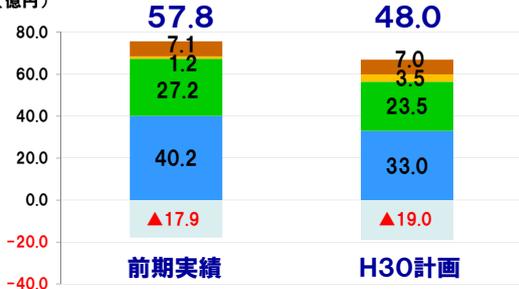
(億円) ■ 合成樹脂事業 ■ 新規材料事業 ■ 建材事業 ■ その他



通期業績予想

セグメント別営業利益

(億円) ■ 合成樹脂事業 ■ 新規材料事業 ■ 建材事業 ■ その他事業 ■ 消去額



セグメント別の課題認識



合成樹脂事業

合成樹脂事業

平成30年の方針

- 足元の原材料価格の高騰に対応できる事業に
- 新設設備による製品の垂直立ち上げを

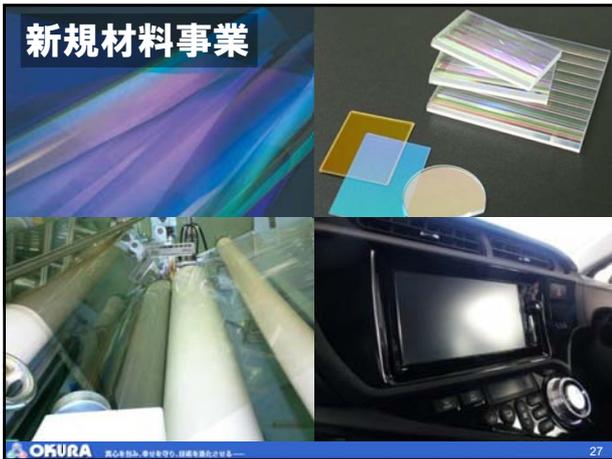
△

上期の概況と下期の課題

【上期】 電子材料向けフィルム等、販売数量が減少

【下期】 価格修正の継続、投資設備の垂直立上と拡販

OKURA 26



新規材料事業

新規材料事業

平成30年の方針

- 既存ラインの安定稼働により、堅実に売上高と利益を稼ぐ
- 製膜能力の増強により、新規案件への対応を

△

上期の概況と下期の課題

【上期】 スマートフォン向けの受注が減少

【下期】 大型用の生産性向上と新規案件への対応

OKURA 28



建材事業

建材事業

平成30年の方針

- PBフロア及び構造用PBを計画通りに拡販する
- 予防保全により、PB製造ラインの安定稼働を実現

△

上期の概況と下期の課題

【上期】 在庫不足に伴う販売数量減

【下期】 稼働率向上による生産量の確保

OKURA 30



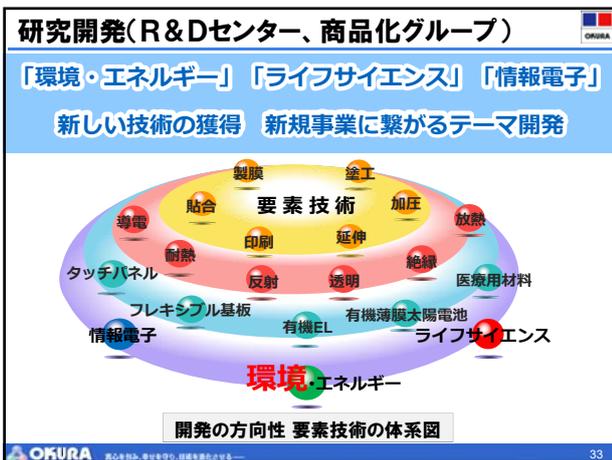
その他事業

地域密着と新商品開発

重点課題

- ホテル: 地域貢献と固定費の引き下げ
- 情報: 鑑査レンジに続く次の柱となる外販製品の開発
- ハウス: 従来工法から脱却し、より耐震・省エネ商品へシフト
- プレカット: 地域一番の競争力キープと利益率の向上

収益基盤の安定強化



環境負荷低減への取り組み

大倉工業グループ環境方針

私たちは、かけがえのない地球環境を守り、企業と社会の持続的な相乗発展に貢献する事業活動を推進します。

環境負荷低減

環境法令を順守しつつ、省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化・リサイクル、汚染の防止に努めることにより、気候変動の緩和及び生物多様性・生態系の保護に貢献します。

環境配慮商品

環境に配慮した企画・開発を行い、より環境にやさしい製品やサービスの提供に努めます。

環境負荷低減への取り組み

事業を通じて環境負荷低減を図る

<p>① 廃棄量の削減</p> <p>② 再利用</p> <p>③ 生分解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィルム薄膜化 ・ 建築廃材のリサイクル ・ 原料ロス再利用 ・ 製品ロス売却、産廃→別用途でリサイクル ・ 生分解マルチフィルム →包装フィルムへの用途拡大
---	--

環境配慮製品の一例

・ガスバリアーシュリンクフィルム「エクラップ®G」	: フードロス削減
「エクラップ®BSS-V2」	
・詰め替え用パウチ袋	: プラスチックボトル削減
・生分解マルチフィルム「エコロム®・FC」	: 廃棄不要
・パーティクルボード「Rex Board®」	: 建築廃材のリサイクル製品

業績予想・事業計画に関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。